

「農とレクリエーション」の特集にあたって

下村 彰 男

自由時間や可処分所得の増大、価値観の多様化など、社会状況の変化に伴って、日本人のレクリエーション活動は多様な広がりを見せるようになってきた。各種のスポーツやアウトドア活動、旅行など、レジャーやレクリエーションに関する様々な情報が提供され、レクリエーション活動の選択幅は大きく広がっている。またこの特集でも取り上げるように、近代技術の進歩により、人々は空間的にも時間的にもヒューマンスケールを越えた暮らしを余儀なくされ、大きな不安とストレスを抱えた毎日をおくっており、レクリエーションの意義や果たすべき役割も変化し、徐々にその重要性を増してきている。

こうしたレクリエーションを取り巻く状況が変化している中で、「農」とレクリエーションとの関わりが強くなってきている。休日に農山漁村あるいは牧場に滞在して産物の収穫や諸作業を体験したり、週末を利用して都市周辺の農地や山林において農作業や山仕事を楽しむライフスタイルなどへの関心が高まってきている。農山漁村という環境、あるいは農作業や農産物など、「農」に係わる様々な側面が豊かなレクリエーション機会を提供し、レクリエーション活動との結びつきを強めてきている。

また「農」は、食、住をはじめ土や生き物など、人間の生命や生活と根源的に関わっているため、純粋に身体を動かすことや身体技術の習得を楽しむレクリエーション活動とは異なる性格を有している。農の作業への係わりは「癒し」の側面、つまり身体的精神的健康の向上や回復にも大きな力を発揮することが指摘されており、都市住民のストレスの解消だけでなく、障害者に対する療法としても注目されている。「農」に係わるレクリエーションは、人々の生活あるいはライフスタイルといった面により近い領域での活動と言うこともできよう。

一方、「農」を取り巻く環境も、近年、大きく変化してきている。明治以降の近代産業化社会において、農もまた産業化を促進してきた。生産効率を高めることを目標として、生産技術が高度化、細分化され、生産者と消費者の役割分担や技術者の専門化が進み、土地利用もまた分離が進んだ。その結果、高い生産性を実現したものの、「農」は人々の暮らしから大きく遊離していったと言える。そして、後継者の不足、海外との競争、環境への負荷、放棄農林地の増加など様々な問題を抱え、閉息した状況を前に大きな転換を迫られている。「業」としての純化を図るだけでなく、都市で生活する人々の「生活」との係わりを深めることで新たな展開を見出そうとする動きは、新たな「農」の展開へ向けての模索の一つであろう。

つまり、いささか大げさに表現すれば、「農」とレクリエーションとの係わりを深めていくことは、人々の新たなライフスタイルの追求することでもあり、同時に今後の「農」を支える新しい社会システムのあり方の模索することでもあると言える。来る21世紀に向けて「レクリエーション」「農」ともに新たな意義づけや役割が与えられる可能性を有していると言えよう。

本特集は、こうした議論を深化させていく契機として、農に関わるレクリエーションを大きく2つの側面から捉え、各々の側面での動向の一端を紹介することを目的としている。2つの側面とは、楽しみや生活の充実を求める活動としての側面と、障害者や高齢者などの身体的精神的健康の向上へのツールとしての活用を含む「癒し」の側面である。農に係わるレクリエーションの動きは大変多様であり、ここで系統的あるいは網羅的に取り上げることは、現段階では難しい。そこで実際の現場等で推進に係わられている方々に現状をご紹介いただくこととした。レクリエーションの新たな位置づけや概念の広がりに関する議論の契機となることを期待したい。